



TITLE:

京都大学附属図書館概要 2012

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学附属図書館概要 2012. 2012

ISSUE DATE:

2012-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180073>

RIGHT:

Outline of the Kyoto University Library

京都大学附属図書館概要



2012

Contents

はじめに	1
年譜	2
歴代図書館長	4
組織	5
研究開発室	5
宇治分館	6
主要コレクション	6
フロア案内	8
トピック	12
統計	14
刊行物	16
アクセス	17



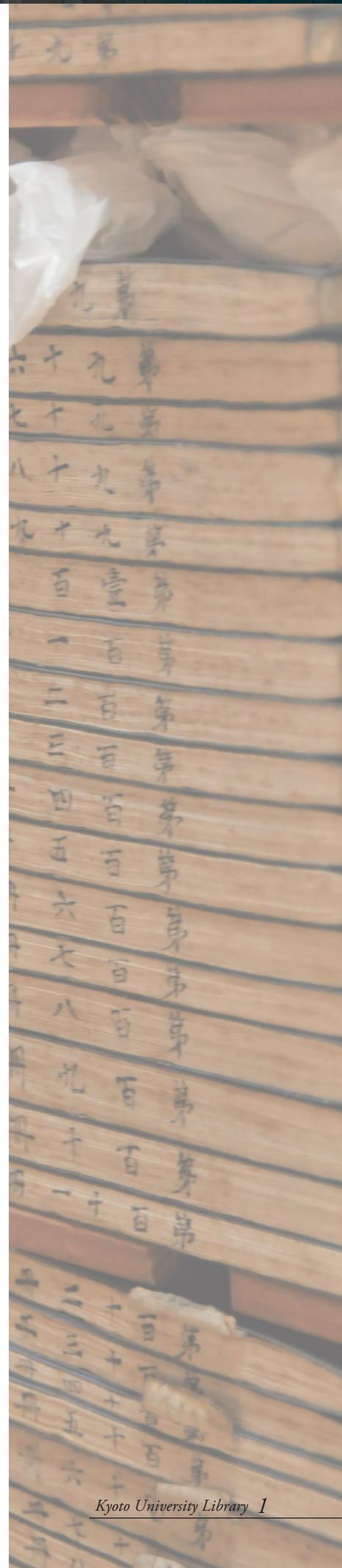
1 はじめに

京都大学附属図書館は明治32(1899)年に閲覧業務を開始して以来、今では88万冊を超える蔵書、多くの電子ジャーナルやデータベースを備え、京都大学の学生や研究者の学習・研究活動を支えています。

地上4階地下3層の建物には、1,305席の閲覧席やAV設備を備えたメディア・コモンズ、情報環境機構の教育用コンピュータシステムのPC端末106台などを設置しており、平日一日平均3,000人以上の利用があります。

また、附属図書館は、平成17(2005)年4月に発足した京都大学図書館機構の全学的機能を実施する中核組織として、学生用図書、電子ジャーナルやデータベースを提供していくための全学調整、遡及入力を推進するための計画及び実施、機関リポジトリの充実などにも取り組んでいます。

平成20(2008)年10月から平成21(2009)年3月にかけて、「利用者が24時間利用できる学習環境の提供」と「3階の利用者スペースの拡大」を柱とした全館改修を実施しました。この改修により、学内の学生や教員向けに24時間利用可能な学習室(91席)を新たに設置するとともに、飲食可能なコーナー(41席)も設けました。また研究個室(14室)や共同研究室(5室)も増設し、時代の変化に応じた図書館サービスが提供できるよう設備等の整備に努め、学習・教育支援サービス機能の充実・強化をはかっています。





2 年 譜

明治30(1897)年	6月	京都帝国大学創立、附属図書館設置
32(1899)年	12月	閲覧室開室（11日。この日を附属図書館創立記念日とする。）
41(1908)年	12月	「附属図書館商議会規程」制定
昭和 8(1933)年	9月	第2閲覧室開室（法経新館2階）
11(1936)年	1月	第1閲覧室焼失
22(1947)年	9月	京都大学附属図書館と改称
23(1948)年	2月	附属図書館（第二代）竣工
34(1959)年	12月	附属図書館創立60周年記念式典举行
36(1961)年	3月	「附属図書館60年史」刊行
38(1963)年	12月	開架閲覧室開室
39(1964)年	9月	館報『静脩』創刊
41(1966)年	4月	電子複写方式による文献複写業務開始
58(1983)年	1月	国立国会図書館分類表採用
	10月	附属図書館（第三代：現行）竣工
59(1984)年	4月	閲覧システム導入（業務のコンピュータ化開始）
60(1985)年	1月	バックナンバーセンター（BNC）開設
	4月	調査研究室設置
	6月	NACSIS-CAT（目録システム）に参加
62(1987)年	6月	理工系外国雑誌センター館に指定

平成 2(1990)年	10月	OPAC運用開始
4(1992)年	4月	NACSIS-ILLサービスに参加
5(1993)年	4月	新入生のためのOPACオリエンテーション開催
6(1994)年	9月	「吉田松陰とその同志」電子図書館実験システムによる電子展示
7(1995)年	1月	留学生のための図書館ツアー開始（以後、毎年開催）
	4月	新入生オリエンテーション開始（以後、毎年開催）
	5月	日曜開館開始
	9月	京都大学百年史編集史料室設置（平成15年3月末まで）
8(1996)年	1月	附属図書館ホームページ開設
	4月	研究開発室発足（調査研究室を改組） 遡及入力事業開始
	6月	「今昔物語集 鈴鹿本」国宝に指定
9(1997)年	1月	附属図書館ホームページが国立大学等優秀広報誌等表彰・奨励賞受賞
10(1998)年	1月	電子図書館システム運用開始
	4月	全学共通科目「情報探索入門」（提供部局：附属図書館）開始（以後、毎年開講）
11(1999)年	11月	附属図書館創立百周年記念式典
12(2000)年	1月	共同保存図書館に関する専門委員会設置（平成16年3月まで）
	3月	自己点検評価・外部評価報告書「京都大学図書館 現状と将来への展望」刊行
	4月	宇治分館発足
	5月	中国書のデータ入力開始（5ヵ年計画）
	7月	全学共通科目「情報探索入門」支援活動に国立大学図書館協議会賞受賞
	11月	2000年京都電子図書館国際会議
13(2001)年	1月	古文献資料専門委員会設置
	2月	京都大学図書館システムの在り方に関する検討委員会発足（平成13年7月まで）
14(2002)年	2月	シネマ、CDコンサートを開始（AVホール）（平成16年3月まで）
	4月	外国雑誌等に関する専門委員会設置（平成16年3月まで）
	6月	「幼学指南鈔」重要文化財に指定
15(2003)年	9月	附属図書館中期目標・中期計画（法人第一期）の策定
16(2004)年	4月	「附属図書館商議会」を廃し、「図書館協議会」と「附属図書館運営委員会」に機能分割 MyLibraryシステム運用開始
	5月	AVブースを「メディア・コモンズ」にリニューアルし、AV資料利用サービスを充実
	9月	学術情報・電子ジャーナルシンポジウム「大学における学術情報資源の整備」開催
17(2005)年	4月	京都大学図書館機構発足
	6月	常設展示コーナー「附属図書館セレクション」開設（平成20年9月まで）
19(2007)年	6月	閲覧席（北エリア）に無線LAN設置
20(2008)年	10月	全館改修工事（11月：一部開館、平成21年1月：「学習室24」開室、4月：全面開館）
21(2009)年	1月	研究開発室に専任准教授配置
22(2010)年	3月	ライブラリーホール改修
	7月	試験期間中の土日祝日の利用時間延長を開始
23(2011)年	10月	平日の閉館時間、土日祝の閉館時間延長試行を開始（平成24年4月より正式運用）
24(2012)年	4月	マスコットキャラクター・ロゴマーク作成

3 歴代図書館長

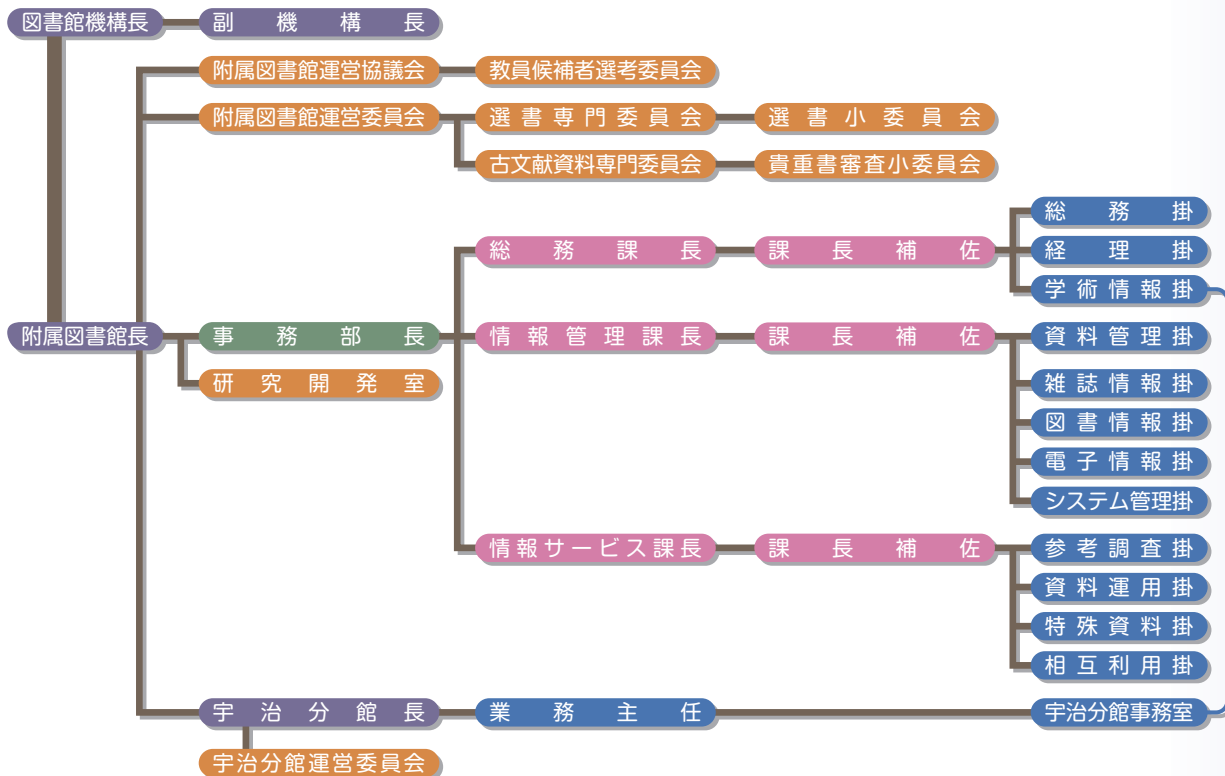
◆ 附属図書館長

	氏 名	就 任 ～ 退 任
初 代	島 文次郎 (法)	明治32年11月6日～明治43年7月25日
第2代	石 川 一 (司書官)	明治43年7月25日～明治44年10月1日
第3代	新 村 出 (文)	明治44年10月1日～昭和11年10月19日
第4代	羽 田 亨 (文)	昭和11年10月19日～昭和13年11月25日
第5代	本 庄 榮次郎 (経)	昭和14年1月17日～昭和17年7月28日
第6代	澤 潟 久 孝 (文)	昭和17年9月1日～昭和22年5月31日
第7代	原 随 園 (文)	昭和22年5月31日～昭和24年11月8日
第8代	泉 井 久之助 (文)	昭和24年11月8日～昭和32年7月15日
第9代	田 中 周 友 (法)	昭和32年7月15日～昭和38年7月14日
第10代	足 利 惇 氏 (文 事務取扱)	昭和38年7月15日～昭和38年7月25日
第11代	堀 江 保 蔵 (経)	昭和38年7月25日～昭和41年7月24日
第12代	穴 戸 圭 一 (工)	昭和41年7月25日～昭和46年3月31日
第13代	平 岡 武 夫 (人文)	昭和46年4月1日～昭和48年3月31日
第14代	林 良 平 (法)	昭和48年4月1日～昭和57年3月31日
第15代	高 村 仁 一 (工)	昭和57年4月1日～昭和59年3月31日
第16代	西 原 宏 (工)	昭和59年4月1日～昭和61年3月31日
第17代	西 田 龍 雄 (文)	昭和61年4月1日～平成4年3月31日
第18代	朝 尾 直 弘 (文)	平成4年4月1日～平成7年3月31日
第19代	長 尾 真 (工)	平成7年4月1日～平成9年3月31日
第20代	万 波 通 彦 (工)	平成9年4月1日～平成10年3月31日
第21代	菊 地 光 造 (経)	平成10年4月1日～平成12年3月31日
第22代	佐々木 丞 平 (文)	平成12年4月1日～平成17年3月31日
第23代	大 西 有 三 (工)	平成17年4月1日～平成20年9月30日
	大 西 有 三 (理事 事務取扱)	平成20年10月1日～平成20年10月31日
第24代	藤 井 讓 治 (文)	平成20年11月1日～平成23年3月31日
第25代	林 信 夫 (法)	平成23年4月1日～

◆ 宇治分館長

	氏 名	就 任 ～ 退 任
初 代	杉 浦 幸 雄 (化研)	平成12年4月1日～平成14年3月31日
第2代	池 淵 周 一 (防災)	平成14年4月1日～平成18年3月31日
第3代	佐 藤 直 樹 (化研)	平成18年4月1日～平成22年3月31日
第4代	川 井 秀 一 (生存研)	平成22年4月1日～平成24年3月31日
第5代	時 任 宣 博 (化研)	平成24年4月1日～

4 組織



区分	事務部長	課長	課長補佐	掛長等	主任	掛員等	合計
職員数	1	3	3	13	1	43 (31)	64

平成24年4月1日現在。宇治分館を含む。()内は再雇用職員、事務補佐員で内数。

5 研究開発室

	所属・職名	氏名	活動領域
室長	附属図書館長	林 信夫	
室員	附属図書館准教授	北村 由美	●全般
室員	高等教育研究開発推進センター教授	小山田耕二	●情報リテラシー教育・講習
室員	学術情報メディアセンター教授	喜多 一	●情報リテラシー教育・講習
室員	大学院教育学研究科教授	稲垣 恭子	●情報リテラシー教育・講習
室員	情報環境機構 IT 企画室	古村 隆明	●情報システム
アドバイザー	図書館機構副機構長 大学院工学研究科教授	引原 隆士	

6 宇治分館

宇治分館は、平成12（2000）年4月宇治地区5研究所共通図書室を母体にして、宇治キャンパスの各図書室が「附属図書館宇治分館」として一元化された図書館です。

宇治キャンパスは、自然科学系の4つの研究所（化学研究所、エネルギー理工学研究所、生存圏研究所、防災研究所）と宇治キャンパスにサテライトを置く4つの研究科（工学研究科、農学研究科、エネルギー科学研究科、情報学研究科）で構成されています。そのため、蔵書は自然科学系の図書と学術雑誌が主体となっています。

アクセス



JR奈良線 黄檗駅・京阪宇治線 黄檗駅より 徒歩 約7～10分
From Obaku (JR or Keihan) 7～10min. by walk.

7 主要コレクション

国宝

今昔物語集 鈴鹿本 巻2, 5, 7, 9, 10, 12, 17, 27, 29 計9冊

重要文化財

紙本墨書 万葉集 巻16（尼崎本）1帖 平安末鎌倉初期筆写
紙本墨書 古今集注 巻1～15, 17（欠巻16, 17末～20）2帖 藤原教長撰 仁治2年鎌倉中期伝 二条師忠筆
紙本墨書 兵範記 49軸 兵部卿 平信範 長承元年～承安元年
紙本墨書 範国記 1軸 平範国 長元9年 春秋冬記
紙本墨書 知信記 1軸 平知信 天承2年 春記
清原家家学書 34種 紙本墨書
幼学指南鈔 巻7, 22 2帖 [平安末期] 写

特殊文庫

維新特別資料文庫

吉田松陰の遺墨を中心とし、「奇兵隊日記」や大久保利通自筆「三藩盟約書草案」、平野国臣のこより文字など、幕末から明治維新の勤皇志士達に係る多数の資料で構成。

大塚京都図コレクション

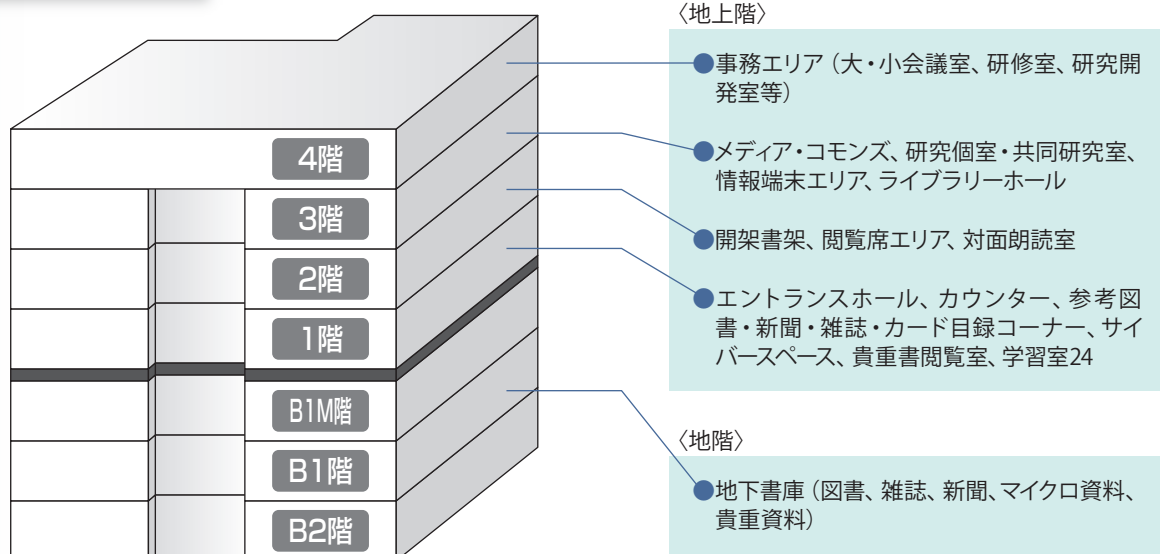
大塚隆収集による江戸期から近代に至る京都に関する地図の体系的コレクション470余枚で構成。現存する本邦最古の京都市街地図『都記』（通称『寛永平安町古圖』）を含む。

河 合 文 庫	793部（2,160冊）の朝鮮文書類と典籍で構成。文学博士河合弘民が朝鮮史の研究に資するために収集した蔵書。
菊 亭 文 庫	菊亭家家記、特に家業の音楽書を主軸として有職故実に関する文書・記録で構成。西園寺実兼の四男兼季を遠祖とする菊亭家相伝の文書・典籍を収集した蔵書。
旭 江 文 庫	大賀寿吉旧蔵のダンテに関する原典や新聞、雑誌の断簡3,000冊の集書で構成。
近 衛 文 庫	漢籍の他、宇津保物語、落窪物語、大鏡等の古写本で構成。陽明文庫の設立時に、近衛家から3,150冊の典籍が本学に寄贈。
島 田 文 庫	明治時代の仏教学者島田蕃根が島田家伝世の文書記録に、蕃根自身の収書を加えた、図書480点よりなる修験道文献の特異な集成。
蔵 經 書 院 文 庫 ・ 日 蔵 既 刊 本 ・ 日 蔵 未 完 本	京都蔵経書院の旧蔵本で構成。明治38年4月より大正元年にわたって蔵経書院が刊行した『大日本統蔵経』の底本となった仏典類と真宗関係の仏書。
新 聞 文 庫	元大阪新聞社記者中神利人旧蔵の、幕末より第二次世界大戦の初期に至る我が国の諸新聞とその類縁資料で構成。
清 家 文 庫	明経道清原家に伝わった経書ならびに日記・秘伝を中心とした収書で構成。清原家家学書34種は重要文化財指定。うち、孝子伝は本館設立60周年記念事業の一つとして複製し、広く紹介。
谷 村 文 庫	大正・昭和の実業家谷村一太郎旧蔵の和漢書9,200冊の稀書で構成。新村出博士の縁で本学に寄贈され、『光明皇后願経』、『伝桓武天皇写経』など多彩な資料を含む。
陶 庵 文 庫	本学創設当時の文部大臣で、本学の設立に尽力した西園寺公望公爵の愛蔵書680部（8,046冊）で構成。
中 井 家 絵 図 ・ 書 類	京都の宮大工の棟梁中井家の御所、二条城、各寺社の建築関係の図面、古文書、地図など旧蔵資料和書177冊、図面類2,276枚で構成。
中 院 文 庫	中院通規伯爵の旧蔵書、文書記録を含む典籍1,041冊で構成。通村、通勝の万葉集、古今集等の勅撰和歌集をはじめとし、源氏物語、伊勢物語等自筆の訓注、評釈等の精粋な資料を含む。
平 松 文 庫	公家西洞院時慶を遠祖とする平松家伝世の3,100余冊の集書。朝廷の儀式典例、日記に貴重なものが多数。兵範記、範国記、知信記の3点は重要文化財指定。他に眞名字本平家物語を含む。
富 士 川 文 庫	明治以前の和漢の医書と江戸中期以後主として幕末期の西洋医学の翻訳書で構成。医学博士、文学博士富士川游が「日本医学史」の編纂のため収集した蔵書。
宮 崎 市 定 コレ ク シ ョ ン	宮崎市定名誉教授旧蔵の地理書と古地図で構成。1561年刊行のヴェネチア版『プトレミー地図帳』、1550年に木版筆彩された『ミュンスターの新世界図』などを含む。
イ ス パ ニ ア 文 庫	イスパニア国最高学術研究会議の配慮により、昭和25年同国政府より寄贈された学術図書1,300余冊で構成。
ロ ー ル ズ ・ シ リ ー ズ	英国中世の公文書、記録類の集大成724冊で構成。Rolls Seriesと称されるのは、Master of the Rollsの監修のもとに編纂されたことによる。

おもな特殊文庫をご紹介します。

8 フロア案内

フロア構成

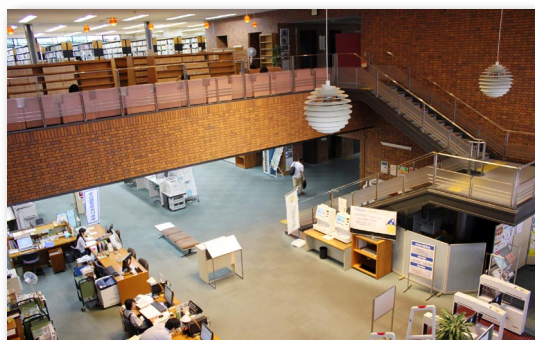


総 計

延床面積			14,011.25㎡
B	2	階	2,353.21㎡
B	1	階	2,353.21㎡
1		階	2,319.29㎡
2		階	2,168.70㎡
3		階	2,297.98㎡
4		階	2,262.09㎡
塔	屋	階	256.77㎡

書架棚総延長			42,996.15m
B	2	階	21,510.10m
B	1	階	9,383.82m
B	1	M 階	6,513.38m
1		階	1,229.10m
2		階	4,359.75m

閲覧席数			1,305席
1		階	289
(内訳)			
学	習	室	24
			132
閲覧席エリア			157
2		階	490
3		階	526
(内訳)			
閲覧席エリア			298
メディア・コモンズ			42
研究個室			14
共同研究室			44
情報端末エリア			128



1 階

学習室24

学習室24は、附属図書館が閉館した後も、朝まで勉強できるスペースです。京都大学の学内に24時間利用できる自学自習環境を設けることについては、京都大学学生生活白書や総長主催のキャンパス・ミーティングなどで学生から多くの要望が寄せられていました。これを受けて2009年1月19日から24時間利用可能な学習室「学習室24」がオープンしました。「学



習室24」は91席の自学自習のできるスペース「自学24」（約210㎡）と飲食・談話ができる41席のスペース「なごみ」からなっています。

学習室24は、利用者の安全を考慮して、入退室する際に必ず学生証あるいは職員証を認証装置に通すようにしています。また、防犯カメラを6か所に設置し、夜間には警備員を配置しています。

2 階

閲覧席エリア

閲覧席エリアは、フロア全体を間仕切りや段差を作らず、開放的な雰囲気を念頭において什器を配置しています。また、利用度の高いエリアのため、照明の方法、書架位置、閲覧座席の種類と配置について、特に配慮しています。閲覧席は、自然採光を考慮して窓際に設けて、書架はその内側に配置しています。



メディア・コモンズ

メディア・コモンズは、CDやDVDをはじめ多種のメディアに対応できるように設計され、勉学や研究に必要な映像や音声情報を視聴できるほか、学生や教職員が読書や勉強で疲れた頭を音楽や映像でリフレッシュすることができます。

ガラス張りの240㎡のスペースに、DVDやビデオが見られる個人用ブースが16席、窓越しに時計台や吉田山を見ながらCDを聞ける個人用ブースが8席、50インチの大型プラズマ・ディスプレイでDVDを見ることができる4人用AVコーナーが2箇所、合計32席があります。さらに、5.1チャンネルスピーカーを装備したメディア・シアター（防音装置付き、10席）があります。

メディア・コモンズの中には、鑑賞用の資料として、CD6,930点、DVD1,020点（映画、ドキュメンタリー、音楽ほか）、ビデオ462タイトル（ドキュメンタリー、言語）を用意しています。また1階カウンターで手続きをすれば、利用者自身が持ち込んだ資料も視聴することができます。



研究個室・共同研究室

研究個室（14室）は、大学院生と教員向けに、より研究に専念できる環境として用意した一人用の個室です。附属図書館の3階にあり、各部屋には有線の情報コンセントを設置しています。

共同研究室（5室）は、グループでの共同研究・学習などのために利用できる部屋です。2, 3人の少人数から20名まで利用できます。これらの部屋全てには、有線の情報コンセントとホワイトボードを設置しています。またプロジェクター（1台）の貸出を1階カウンターで受け付けています。



情報端末エリア

3階の情報端末エリアには、情報環境機構の教育用コンピュータシステムのオープンスペースラボラトリー（OSL）としてインターネットに接続できる106台のパソコンがあります。また、各階北エリアには情報環境機構のアクセスポイントが設置されており、無線LANが利用できます。



ライブラリーホール

ライブラリーホールは2010年3月の改修工事により、これまでの固定座席を廃し、最大120人を収容できる多目的ホールになりました。講演会に限らず、会議や展示会などにも使用できます。



地下

貴重書庫

B1には、国宝や重要文化財を含む貴重書、稀覯本を納めた収容力5万冊の貴重書庫があります。専用の空調設備で常に温度や湿度を一定に保つとともに、天井、壁面、床をすべて板張りにしています。特に壁は、板を固定させない落とし込み構造とし、結露を防ぐ仕組みを施して、湿度の変化に柔軟に応じる「校倉造り」になっています。また、防虫、防火にも万全を期しています。



9 トピック

読書展示／貴重書公開展示

秋の読書週間にちなみ、京都大学の教員が学生に勧める図書の展示企画『Book Selection2011「大学生にすすめる本：理系編」』（H23.10.24-11.13）を実施しました。

また、2011年に新たに附属図書館の貴重書として指定された資料のミニ展示『新指定貴重書展「山村才助と菊池三溪」』（H23.11.18-11.24）も開催しました。

両企画とも好評のうちに終了しました。



企 画

開館延長の試行

平成23年10月1日から平成24年3月31日まで、以下のとおり開館時間の延長を試行しました。時間延長は利用者に好評であり、平成24年4月からは本実施としました。

平 日：午前9時開館
→ 午前8時開館

土日祝：午後5時閉館
→ 午後7時閉館
(学習室24も同様)

学習室24の環境改善

「学習室24」は、附属図書館が閉館した後も、朝まで勉強できるスペースで、自習スペース「自学24」と会話・飲食可能な「なごみ」に分かれています。利用者からの要望により、「なごみ」の電源を6口から28口に増設し、また、「自学24」と「なごみ」の間の防音工事をを行い、環境改善に取り組みました。



学習室24 なごみ

サービス

防災対策の強化

東日本大震災の教訓を踏まえ、防災対策に注力しました。施設設備関係では、書庫の床面及び階段昇降口壁面に蓄光性テープによる非常口サインを整備しました。また、10年ぶりに防災訓練を実施し、職員の防災意識を高めました。



震度7の地震体験



消防署職員による防災指導

施 設

英文概要の作成

附属図書館及び図書館機構の概要を紹介する「附属図書館概要」「図書館機構概要」の英語版を新たに作成しました。Webサイトでも公開しています。

図書館の 20

サービス

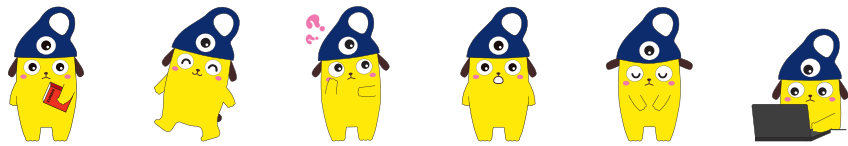


図書館マスコットキャラクター・ロゴマークの作成

広報

図書館からの案内に統一感をもたせると共に、利用者からより親しみをもってもらうために、マスコットキャラクター「クラちゃんとインちゃん」とロゴマークを制作しました。

「クラちゃんとインちゃん」は図書館に住む妖精で、図書館の各所に出没します。「クラちゃんとインちゃん」のプロフィール等については、附属図書館Webサイトをご覧ください。



附属図書館Webサイト <http://www3.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

主な活動

11

サインの見直し

施設

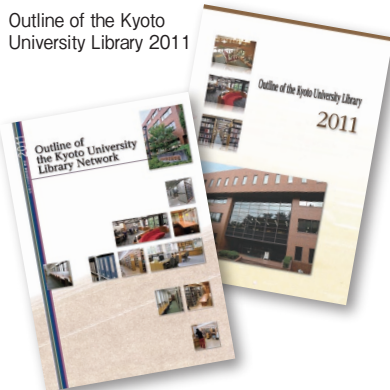
館内のサイン・フロアマップを一新し、目を引く大きな写真等を活用したよりわかりやすいものに変更しました。また、日本語・英語を併記することにより、留学生にもわかりやすくなりました。

1階エレベータ横案内



広報

Outline of the Kyoto University Library 2011



Outline of the Kyoto University Library Network 2011

オープンキャンパス

企画

京都大学オープンキャンパス (H23.8.10-11) では、例年行っている図書館施設見学に加え、ミニ講習会「文献探索入門：高校生編」、「スタンプラリー」、「書庫ツアー」を初めて実施し、大変好評を得ました。



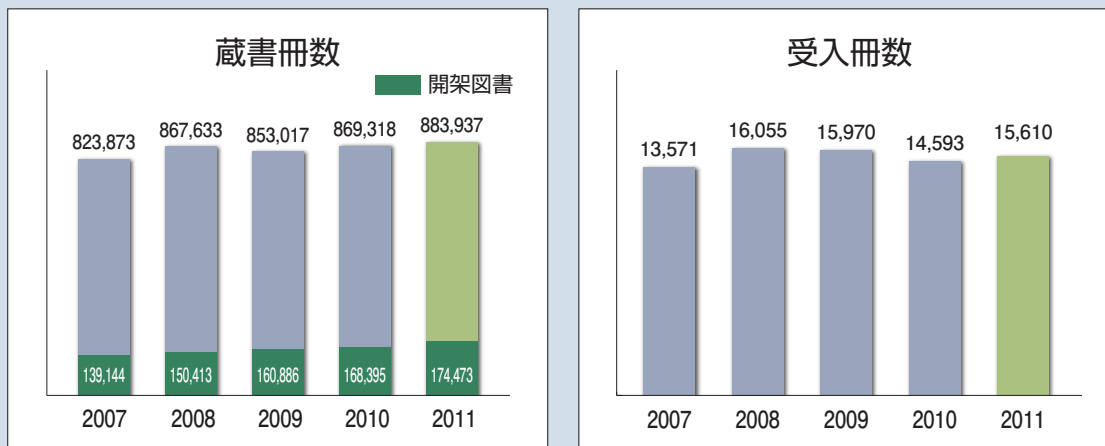
盛況となった書庫ツアー



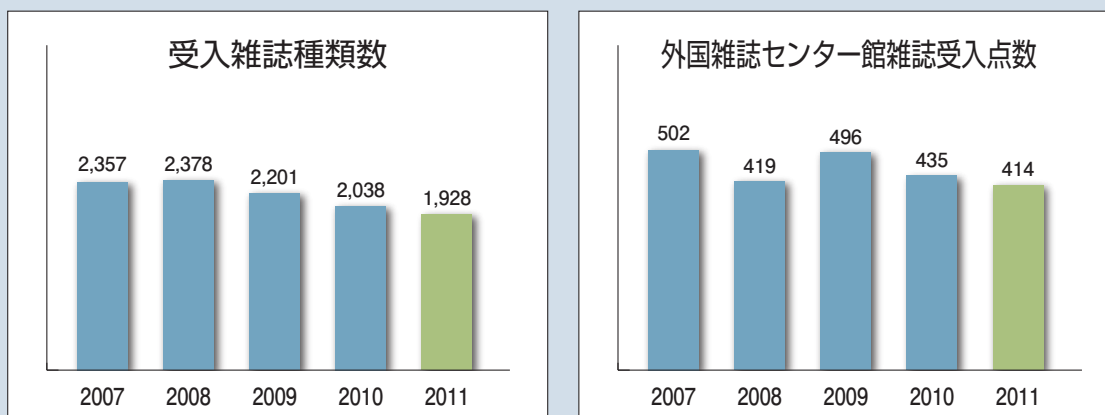
文献探索法の解説に聞き入る高校生

10 統計

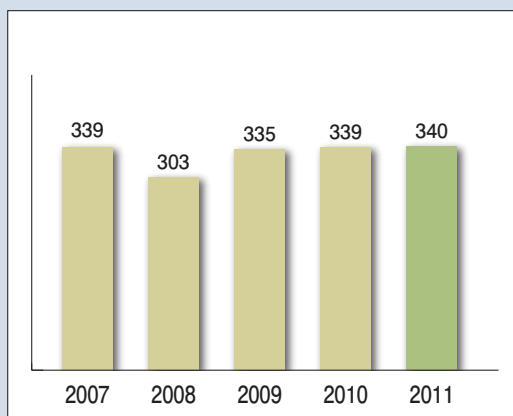
蔵書冊数



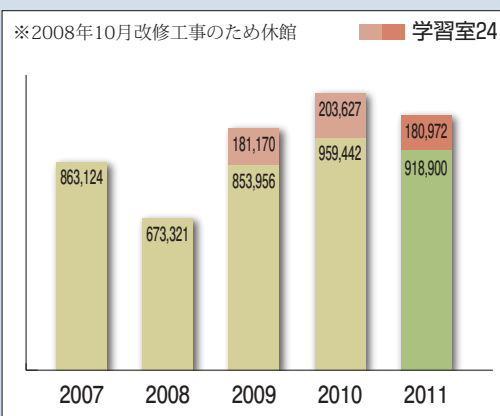
受入雑誌種類数



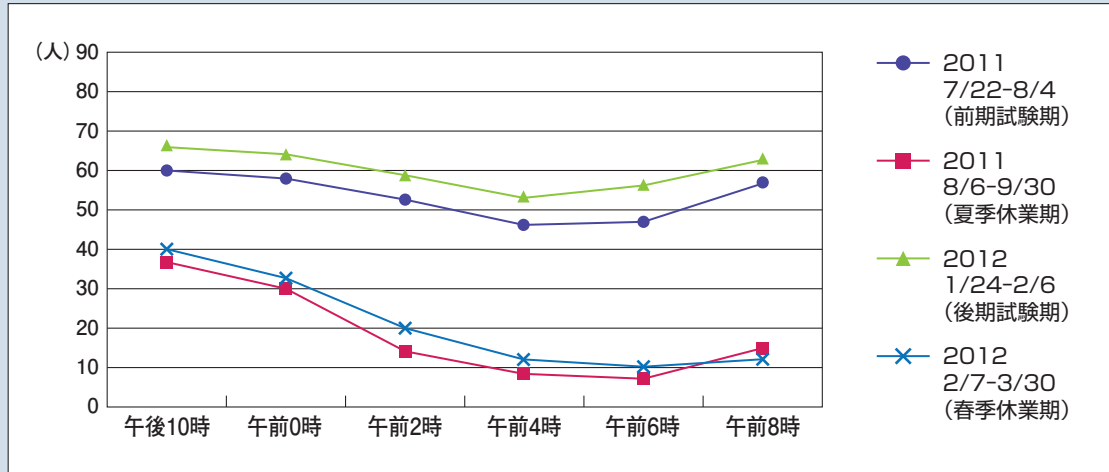
開館日数



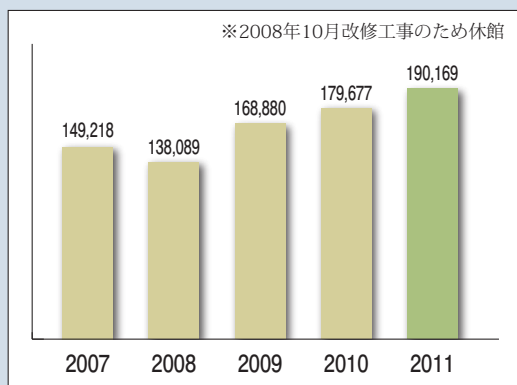
入館者数



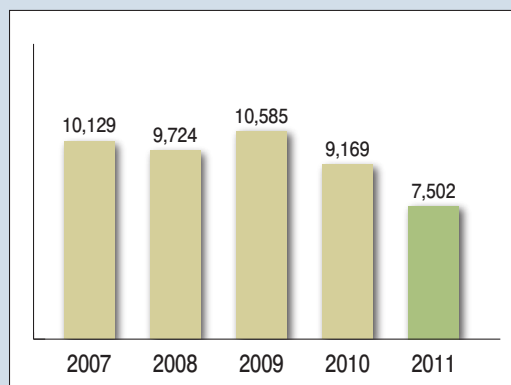
学習室24 一日平均夜間在室者数



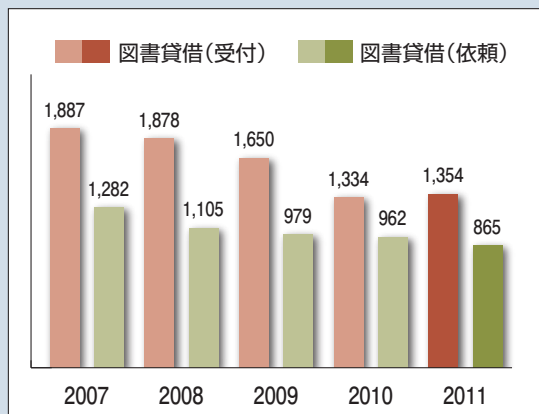
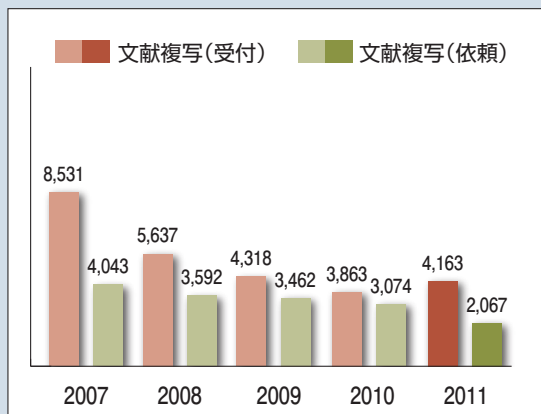
貸出冊数



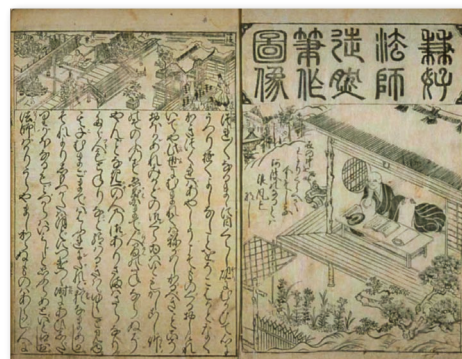
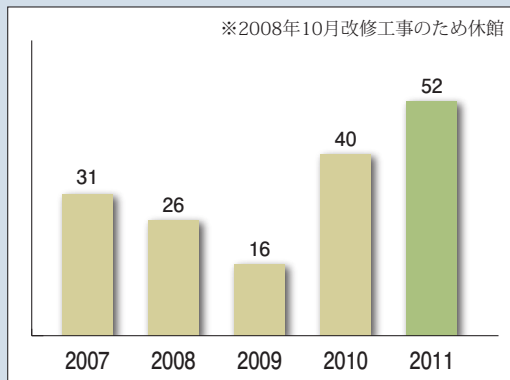
参考調査件数



相互利用件数



訪問者件数



徒然草絵抄 (冒頭)

● 展覧会への図書貸出

2009年 「方丈記」「徒然草絵抄」「徒然草寿命院抄」を「平成21年度特別展 没後370年 松花堂昭乗 —先人たちへの憧憬(あこがれ)—」展(八幡市立松花堂美術館)に貸出
ほか、合計8件18点を出陳

2010年 「雨月物語」「藤簀冊子」「諸道聴聞世間猿」を「特別展 没後200年記念 上田秋成」展(京都国立博物館)に貸出
ほか、合計13件30点を出陳

2011年 「兵範記」「西行物語」「太平御覧」を「神戸市立博物館開館30年記念 NHK大河ドラマ50年 特別展 平 清盛」展(神戸市立博物館)に貸出
ほか、合計10件27点を出陳

11 刊行物

■ 2011年度

- 京都大学附属図書館概要2011
- 京都大学附属図書館ニュースレター (Library Service News: LSN)
・ 2011年4月号 (No.192) - 2012年3月号 (No.203)
- 2011京都大学附属図書館 利用案内
・ 日本語版、英語版、中国語版(簡体)、韓国語版
- 2011京都大学附属図書館へようこそ
(オープンキャンパス用説明資料)



12 アクセス



※宇治分館へのアクセスはP.6に掲載

主な交通機関

主要鉄道駅	利用交通機関等	乗車バス停	市バス系統	市バス経路	本学までの所要時間	下車バス停
JR/近鉄 京都駅から	市バス	京都駅前	206系統 17系統	「東山通 北大路バスターミナル」行 「河原町通 錦林車庫」行	約35分 約35分	京大正門前又は百万遍 百万遍
阪急 河原町駅から	市バス	四条河原町	201系統 31系統 17系統 3系統	「祇園 百万遍」行 「東山通 高野・岩倉」行 「河原町通 錦林車庫」行 「百万遍 北白川仕伏町」行	約25分 約25分 約25分 約25分	京大正門前又は百万遍 京大正門前又は百万遍 百万遍 百万遍
地下鉄烏丸線 烏丸今出川駅から	市バス	烏丸今出川	203系統 201系統	「銀閣寺道・錦林車庫」行 「百万遍・祇園」行	約15分 約15分	百万遍 京大正門前又は百万遍
地下鉄東西線 東山駅から	市バス	東山三条	206系統 201系統 31系統	「高野 千本北大路」行 「百万遍 千本今出川」行 「修学院・岩倉」行	約20分 約20分 約20分	京大正門前又は百万遍 京大正門前又は百万遍 京大正門前又は百万遍
京阪 出町柳駅から	徒歩 市バス	(東へ) 出町柳駅前	201系統 17系統 3系統 203系統	「祇園 みづ」行 「錦林車庫」行 「北白川仕伏町」行 「銀閣寺道・錦林車庫」行	約20分 約10分 約10分 約10分	京大正門前又は百万遍 百万遍 百万遍 百万遍



2012 (平成24) 年7月発行

編集・発行

京 都 大 学 附 属 図 書 館

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL 075-753-2613 FAX 075-753-2629

<http://www3.kulib.kyoto-u.ac.jp/>



適切に管理された森林から
切り出された木材を使用しています